図画工作科における「将来的レリバンス」を高めるカリキュラム・マネジメントについての一考察

八嶋　孝幸

A Study of Curriculum management to enhance “relevance in the future” in the arts and crafts.

Takayuki YASHIMA

本研究は，学びをつなげ，実感を伴う学びにするカリキュラム・マネジメントを実施することが，「将来的レリバンス」を高めることに有効であるかについて検証することを目的とする。

本研究において実施した単元は，図画工作で作った作品（オリジナルブッシュ・ド・ノエル）を入れるための箱（以下，ノエルボックス）をつくるということを単元のゴールに設定した算数と図画工作科の合科単元である。子供たちは，図画工作でつくった大切な作品を入れるための箱なので，よりよく製作したいという願いを抱くと考える。そして，どうやったらよい箱の形をつくれるのか，空き箱等の形を観察し，面の形やつながり方，辺や頂点に目と向けていく。また，箱の形の特徴について話し合う中で，異なる考えと出会い，新たな視点から箱の形を見つめ直していく。また，これまで学習したこと（図画工作科，算数科双方において）が大切な作品を入れる箱づくりに生かされることで，図画工作科の学習における「将来的レリバンス」が高められるのではないかと考え実施した。

単元終了後のポートフォリオの振り返りの文章から，「現在的レリバンス」「将来的レリバンス」の両方を感じたと思われる記述が一番多く，次が「現在的レリバンス」を主に感じる記述であった。一番少なかったのは，「将来的レリバンス」を主に感じる記述であった。カリキュラム・マネジメントを意図した指導を行うことで，「現在的レリバンス」「将来的レリバンス」の双方が高まる割合が増えるのではないかと考える。質問紙調査においても，図画工作科，算数科双方が，「現在的レリバンス」，「将来的レリバンス」共に上昇するという結果が見られた。

これまでの結果から造形的な見方・考え方を生かし教科横断的に学びをつなげるカリキュラム・マネジメントをすることで，「将来的レリバンス」が高まることが確認できた。他教科の学習に生かすことで造形的な見方・考え方が培われると共に，「将来的レリバンス」も高まったのであろう。

また，算数科と図画工作科を関連させる単元を実施したことで，図画工作科の課題である「将来的レリバンス」の低さ，算数科の課題である「現在的レリバンス」の低さの双方を補うことができたのも成果であり，各教科の特性を生かして指導することで「現在的レリバンス」と「将来的レリバンス」の高まりに，相関関係が見られるようになると考える。

ただし，「将来的レリバンス」が高まったことで子供たちが自己のキャリア形成の方向性につなげていけるようになったかについては，長期的な追跡調査と客観的な考察の工夫が必要であろう。

今後もカリキュラム全体を見通し，よりよく資質・能力を培うためのカリキュラム・マネジメントについて実践事例を重ね，広く検討していきたい。